

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 古勝 隆一					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	『莊子』郭象注を読む										
[授業の概要・目的]											
<p>『莊子』は道家思想の核心的な文献であるが、同書を理解するために欠かせないのが、西晋の郭象が書いた注釈である。この授業では、『莊子』郭象注をなるべく厳密に読み解くことを目標とする。</p> <p>ただ、『莊子』が難解であるのみならず、郭象の注も相当に難解である。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはむろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>後期は、人間世篇を読むこととする。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『莊子』郭象注の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。</li> <li>・訓詁に着目し、『莊子』及び郭象注を正確に理解する。</li> <li>・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>『莊子』郭象注の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ガイダンス</li> <li>・第2回～6回 人間世篇「顔回見仲尼」章</li> <li>・第7～10回 人間世篇「葉公子高将使」章</li> <li>・第11回～13回 人間世篇「有人於此」章</li> <li>・第14回 人間世篇「匠石之齊」章</li> <li>・第15回 フィードバック。</li> </ul>											
[履修要件]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。</li> <li>・現代中国語の正しい発音ができること。</li> <li>・正しい日本語を書くことができること。</li> </ul>											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
必要なテキストは教室にて配布する。

### [参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

### [授業外学習(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。